●シリーズ●わが町の文化財〈47〉

世羅町指定重要文化財　赤屋村近世古文書

昭和44年11月20日指定

もと赤屋村の庄屋宅に保存されていた古文書類で、今以上の虫食いや湿気による汚損を避けるため、現在大田庄歴史館に寄託されています。内容は御触書や地詰帳、証文控帳、村絵図など数百冊にのぼる貴重な資料です。

古いものでは、正保3（一六四六）年、慶安4（一六五一）年、寛文11年（一六七一）年、貞享5（一六八八）年、元禄2（一六八九）年などの文書があり、赤屋地区はもとより世羅町の江戸時代の歴史を解明するうえで大変参考となる古文書群です。

本古文書群の解読については、東地区歴史研究会が解読に尽力され、これまでに『赤屋近世文書』・『郷土に伝わる古文書』として翻刻書の刊行等につとめてられている。

●シリーズ●わが町の文化財〈48〉

世羅町指定重要文化財　潮音寺の観音堂

昭和46年2月16日指定

奈良時代の神護景雲3（七六九）年に宇佐八幡宮信託事件の起きた際，和気清麻呂が信託の確認のため九州西国へ赴く途中、現在の三原市大和町篠に立ち寄ったという伝説があります。潮音寺の寺伝には，清麻呂が篠の白見山海北寺に宿泊した際、観音様からのお告げを受け、その寺に本尊として祀っていた聖観音を宝亀4（七七三）年に現在の世羅町大字小国へ移転させ、七堂伽藍を設け、改称して「白華山潮音寺」としたとされています。

その後，南北朝時代の正平21年（一三六六）年、方外恵超禅師が禅寺として中興開山（再興）しました。戦国時代の天正年間（一五七三～一五九二）と近代の大正4（一九一五）年に大火に遇い、宝物・古記録の大部分を焼失しています。

寛政9（一七九七）年の修理棟札によると，かつては「薬師堂」であったものを観音堂に改めたことが分かっています。また，文化2（一八〇五）年の「釈迦堂」建立の棟札によると、釈迦如来像の脇に文珠・普賢の両菩薩と33体の観音像を安置したようです。さらに文化12（一八一五）年の棟札には「薬師堂再建立」という表記があり、その都度お堂の名称は変わってはいますが、現在の観音堂をさすものであると推定されています。